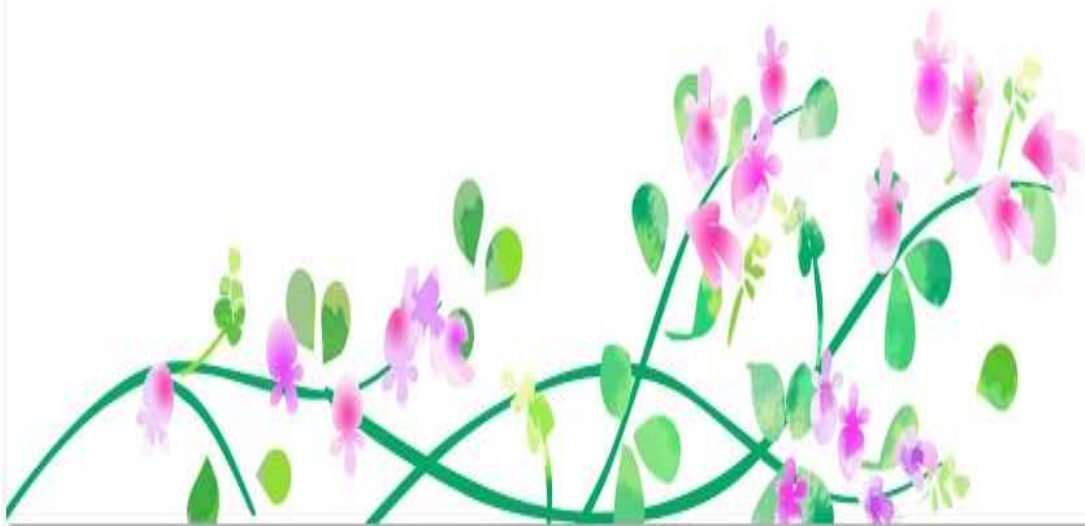




# 九月の俳句

(2021年9月)



## 目次

たべもの俳句	モノロク俳句	歳時記俳句
13	8	1
）	）	）

<長月>

清涼，新涼，秋涼，秋冷，初秋，新秋，爽秋，孟秋，秋色，長月，仲秋，野分，彼岸花

(宇佐美保幸)メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに  
巢鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

沙美の浜さざ波静か九月来る  
鳩時計九月の草木やはらかに  
はや九月朝露あびて朝顔や  
九月来たそろそろ我ら倦怠期

高原に瑠璃のヒゴタイ揺れる秋

露草を愛でる人あり日本人  
雑草を愛でる日本の月草や  
露草は何時も新鮮生え替わる  
露草は庭の片隅いつの間  
露草はいつの世にあれ露草で  
露草を眺める吾も雑草か  
蛍草庭の雑草嫌がられ  
露草に目くじら立てる人もいて

盗人萩吾もレツテルを貼られけり  
分離帯盗人萩は耐えて咲く



盗人萩どこかで会った気もするが  
盗人萩といふ中傷に花は陰

東京の夜の街恋し夕化粧  
濡れに濡れおしろいの実が路地にあり  
夕化粧赤し唇また赤し  
夕化粧路地では目立つさりげなく  
少子化や白粉花をお手本に

高齢化公園で鳴く秋の蝉  
丸の内迷いし鳴くか秋の蝉  
東京の蜻蛉はどこで生まれけり  
秋の野に狐の孫が群れ遊び

小鳥来る宅急便もあたゝまり  
小鳥来るスマートフォンに日があたり  
小鳥来るああ我が庭に何がある  
小鳥たち何の葉に実紫



猫じやらし一度はまれば依存症  
猫じやらし犬の小便我慢して

こぼれ日の古寺に清しき秋海棠  
秋海棠古寺の日陰に数輪が  
艶めけど秋海棠は孤独かな

枝が揺れ月光揺れて邯鄲や

鳴き終わり庭の虫たち寝息かな  
ほろ酔いの極楽浄土虫が鳴く  
秋めくや虫だけそれを感じけり  
ヘッドホン外し深夜の虫の秋

キーボードかちかち夜更けちろ鳴く  
スプーンにて食事も介護ちろ鳴く



コスモスも食べたき色にチヨコレート  
秋桜風に負けても起き上がり  
カオスなり風に任せるコスモスは  
コスモスの海に溺れて彷徨える  
風に揺れ風となりしか秋桜は

役立たずされど瑞穂の案山子かな  
あなたには見える色彩秋の声  
方便やただ方便の秋の声

錦紫蘇秋を彩り主張する  
コリウスを見れば淫楽秋を見る

鶏頭も平和主義なり風の中  
鶏頭が竹下通り闊歩する  
鶏頭花彩り増やし好き嫌い  
鶏頭花見れば名前を思い出す  
逃げることでできずぶ濡れ鶏頭花



鶏頭の赤は何かのレトリック

白が好き秋明菊の一重八重  
アレクサとただとどめなく月見かな  
ロボットを友に今宵の月の客  
待宵や空はともかく酒を酌む  
更待の日本全国ポピュリズム

彼岸花炎の花もやがて消ゆ  
幻聴の闇に浮かぶや彼岸花  
曼珠沙華律儀に咲かす定位置に  
秋めくや虫だけそれを感じけり

高齢者ますます増えて秋彼岸  
風を受けただそこにある芒の穂  
悠久に時は流れて芒の穂

パワハラに糸瓜野郎と罵れば



食べもせず糸瓜育てる農家あり  
若者の辞書から消えた糸瓜かな

鱗雲数えるうちに眠くなる  
鰯雲けふの血圧落ち着いて

いわし雲孤独を嫌い一人好き  
いわし雲時に一人で旅に出る

水島のコンビナートに鰯雲  
沁みだして空をキャンバス鰯雲

秋扇や叩き叩かれ講師  
秋扇や持つ人ごとの役回り

馬肥ゆる自然摂理に腹が減る  
ゆふべより秋の蚊増えて一人寝る

秋の蚊もどう生きるのか哲学す  
新聞の正義空しく菜を間引く

秋風やタレント春日のチョッキかな







モロク俳句

モロクし一つ流れよ秋の星  
秋簾似たもの同士モロクし  
秋すだれされど眠れずモロクし

モロクし忘却彼芳草の花  
モロクし眠るも死ぬも草の花

昼酒に酔うてモロク穴惑ひ  
モロクし散るか散らぬか百日紅

モロクし天国地獄天の川  
モロクし終着駅が天ノ川

モロクし何も足らずに萩真白  
モロクし死にゆくものに萩の鬘



モーロクし寂しさまして萩の白

霧を食うモーロクすれば陽は沈む  
モーロクしされど愉快に小鳥来る

モーロクし未練を焦がす曼珠沙華  
モーロクしだんだん淋し吾亦紅  
モーロクしされど生きぬく吾亦紅  
モーロクし語り尽くせぬ吾亦紅

秋の蝶モーロクすれば時もずれ  
モーロクしいちち遠き千艸かな  
モーロクし虫の声さえ深き闇

モーロクしそこそこうれし今日の月  
モーロクし月と冥土の区別なし  
モーロクし身の置きどころ月を見る  
月を待つところ失いモーロクし



モーロクし長きため息居待月

山あれど花野もあれどモーロクし  
水引草棘を抜かれてモーロクす  
モーロクし逆引き大事水引草  
モーロクし忘るることや水引草

モーロクし涙あふれて鰯雲  
モーロクしなにゆえ涙か鰯雲  
モーロクし悔いなくはなし鰯雲

どの顔で死ぬかモーロク石榴の実  
割れ落ちてこれもモーロク石榴かな

蓮の実やモーロクすればどこへ飛ぶ  
モーロクし観音様と秋彼岸  
泣きごととは言わぬモーロク秋彼岸



モーロクし何を感謝か秋分の日  
モーロクし秋分の日のすれ違い

モーロクし願ひ切実流れ星  
馬肥ゆるモーロクしても腹が減る  
モーロクし干からびぬよう蚯蚓鳴く

モーロクやすすめや進め豊の秋  
モーロクし大きな梨を持って余す

モーロクし時間つぶしのねこじやらし  
モーロクし譲れぬものもそして秋





たべもの俳句

秋が来てスープカレーをワンパンで  
唐黍をかじるは難し吾老いて  
シンプルにとうもろこしを炊き込みに

秋なすをハムとチーズで洋風に  
高齢化帳尻合わせ秋茄子や

生まじめに粒をそろえた葡萄かな  
シャインマスカット色を見極め糖度かな  
葡萄みな食べて骨だけ房あわれ

枝豆で餡を手作りずんだ餅  
冬瓜が鎮座まします台所  
冬瓜を炒め透明人生や



シャインマスカット宝石ごとく種もなく  
胡麻和えの胡麻が戦争口の中  
花椒できのこのマリネ常備菜

梨をむく指やパソコンキーボード  
和食では梨もおかずに胡麻酢和え  
団塊も後期高齢長十郎

きらきらと野菜のだし煮秋の星  
秋鮭を包みほっこりホイル焼き

さつまいもスイーツとなり出世して  
焼きいもやおいもプリンに変身す  
哲学は今更無理とさつまいも

新鮮な鰯でこそのにぎり寿司  
胸肉でプリコロチキンはまる秋





しみじみとしめじのうまみ炊き込めて  
冬瓜を卵とあわせお味噌汁  
ピオーネを一粒ごとに愛しんで

秋鯖の半身を使い棒寿司や  
秋鯖を味噌煮仕立に合わせ味噌  
秋鯖や関の一字の格差かな

敬老の日自分で作る炊きおこわ  
敬老日牛肉カレーを自炊して

琥珀色古酒をたしなむ月の宵  
満月やピザ切り分ける男いて  
お月見に臍豆腐と吟醸酒  
星月夜これこれこれだ生姜焼き

冬瓜を叩き食べ頃確かめて  
冬瓜を少しおしやれにクリーム煮



秋となりきのこのパスタでおもてなし  
新蕎麦やそつと小声で昼の酒  
モンブラン渦巻く先にトンボ飛ぶ

石榴割れ露出狂かと誤解して  
秋の空餃子ごときの雲流れ

どぶろくが街で流行りし酔いやすし  
夜食とる駅のホームの牛丼店  
秋散歩貝の佃煮浦安で





